

特254

289

蠶絲業紀要

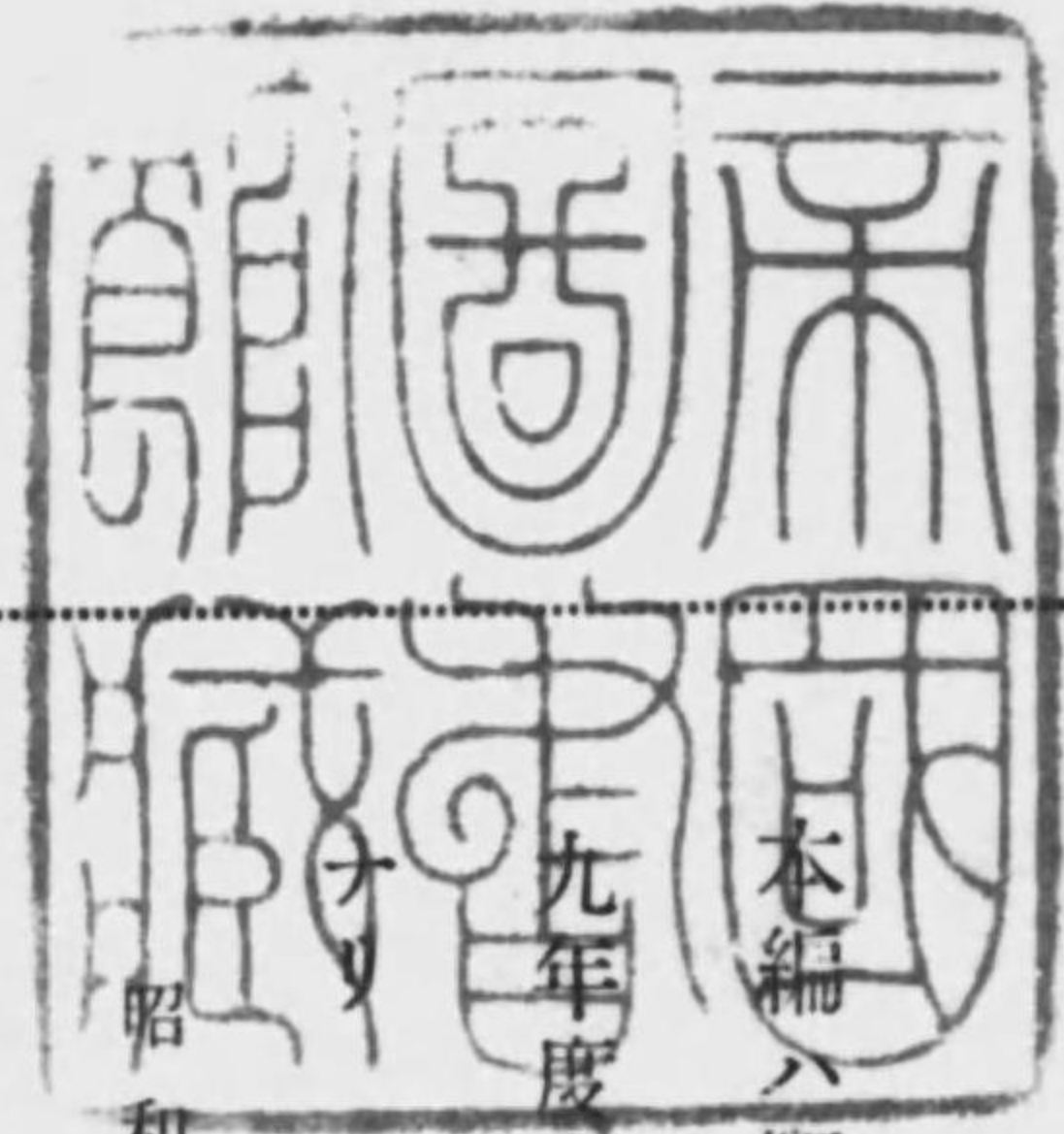
納本



始



特254
289



蠶絲業紀要

本編ハ蠶絲業ニ關スル狀況ヲ知ルノ便ニ資センガ爲昭和
九年度以前ニ於ケル調査統計類ヲ蒐集シテ編纂セルモノ

昭和九年十月

諏訪製絲研究會事務所





Faint vertical text impressions on the right page, likely bleed-through from the reverse side of the paper.



目次

岡谷製絲工場の遠望……………(一)

製絲従業員福利展覧會々場……………(三)

工場従業員大運動會マステージ……………(七)

生絲作業工程……………(八)

一、諏訪製絲業の沿革……………(一〇)

一、諏訪製絲研究會……………(一〇)

一、長野縣製絲業組合諏訪支部……………(一〇)

一、諏訪郡交替休業制工場主組合……………(一〇)

一、縣内製絲經營組織別調……………(一〇)

一、全國製絲業運轉工場數及釜數……………(一〇)

一、諏訪郡内生絲共同施設組合現況……………(一〇)

一、縣内器械製絲工場釜數並生絲製造高累年比較表……………(一〇)

一、諏訪郡川岸・平野・湊三ヶ村製絲工場數及釜數並職工數……………(一〇)

一、諏訪郡内營業製絲工場數並一日平均運轉釜數及使用職工數……………(一〇)

一、諏訪郡器械製絲略年表……………(一〇)

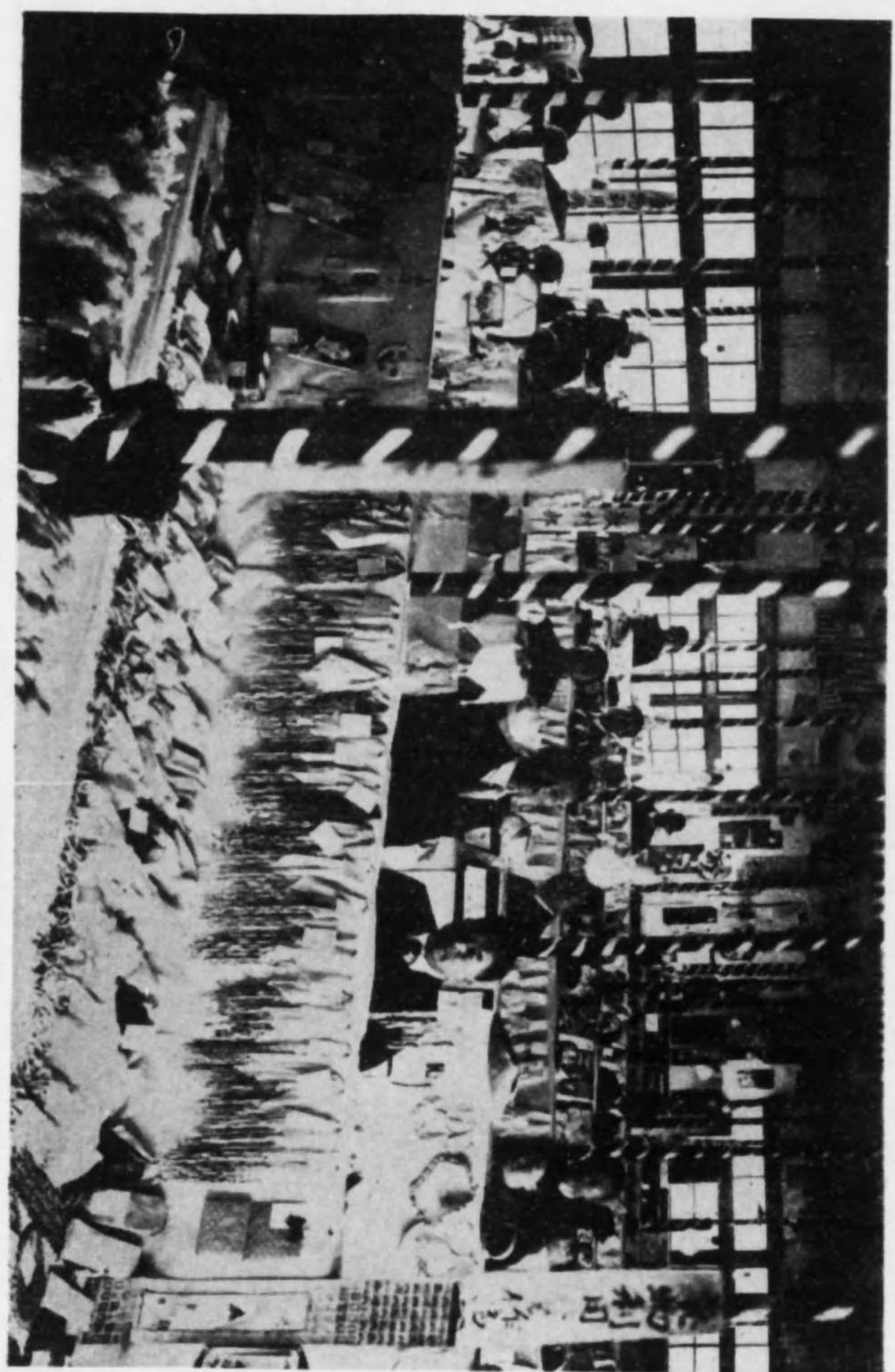
一、長野縣内繭產額……………(一〇)

一、全國道府縣別繭產額……………(一〇)

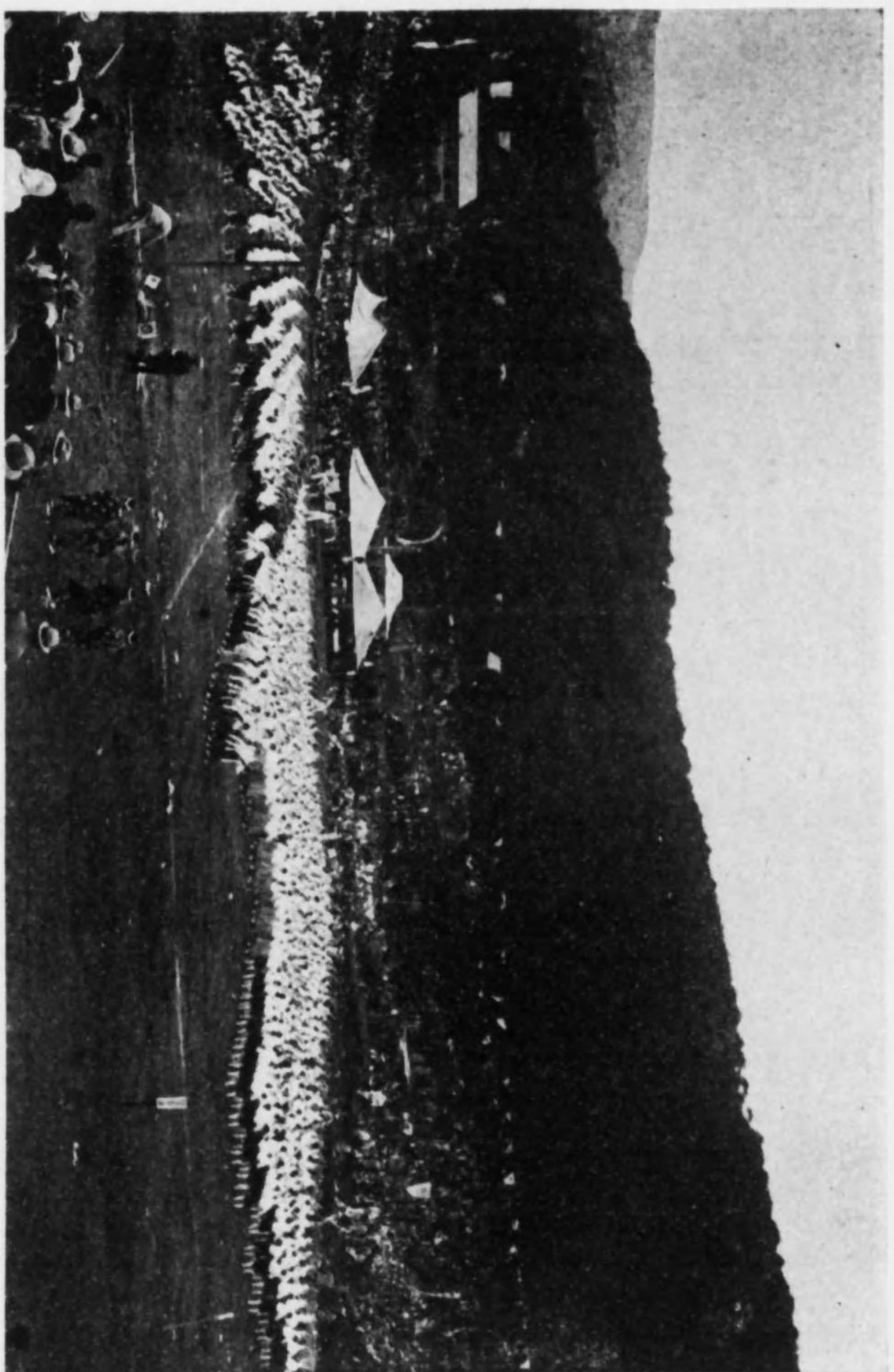
- 一、諏訪郡營業製絲原料仕入並生産品販賣町別表……………(二四)
- 一、諏訪郡内製絲原料仕入地方別表……………(二五)
- 一、松崎(沼津)繭初取引相場……………(二九)
- 一、諏訪郡内職工勤続年數調……………(三三)
- 一、縣内製絲職工勤續表彰者數……………(三三)
- 一、諏訪郡内工場從業工女出身地方別人員表……………(三四)
- 一、諏訪郡内製絲工場從業女工年齡別表……………(三五)
- 一、諏訪郡器械生絲產額……………(三七)
- 一、岡谷・川岸・下諏訪各縣生絲發送高調……………(三九)
- 一、岡谷縣重要貨物發着噸數調查表……………(四〇)
- 一、信州系器械生絲橫濱入荷高調……………(四二)
- 一、全國道府縣別生絲產額……………(四三)
- 一、生絲相場ニ關スル調査……………(四四)
- 一、横神兩市場及紐育市場生絲集散年別狀況……………(四六)
- 一、累年營業製絲百斤生産費調……………(四七)
- 一、累年産業組合製絲生絲百斤生産費調……………(四八)
- 一、横濱神戸生絲輸出高……………(四九)
- 一、職工補習教育娛樂慰安施設標準……………(五〇)



岡谷製絲工場の遠望



製絲從業員福利會展覽場



工 場 従 業 員 大 運 動 會 マ ー ガ ム

【1】
選
簡

【2】
煮
簡

生 絲 作 業 工 程

【1】選 繭



【2】煮 繭



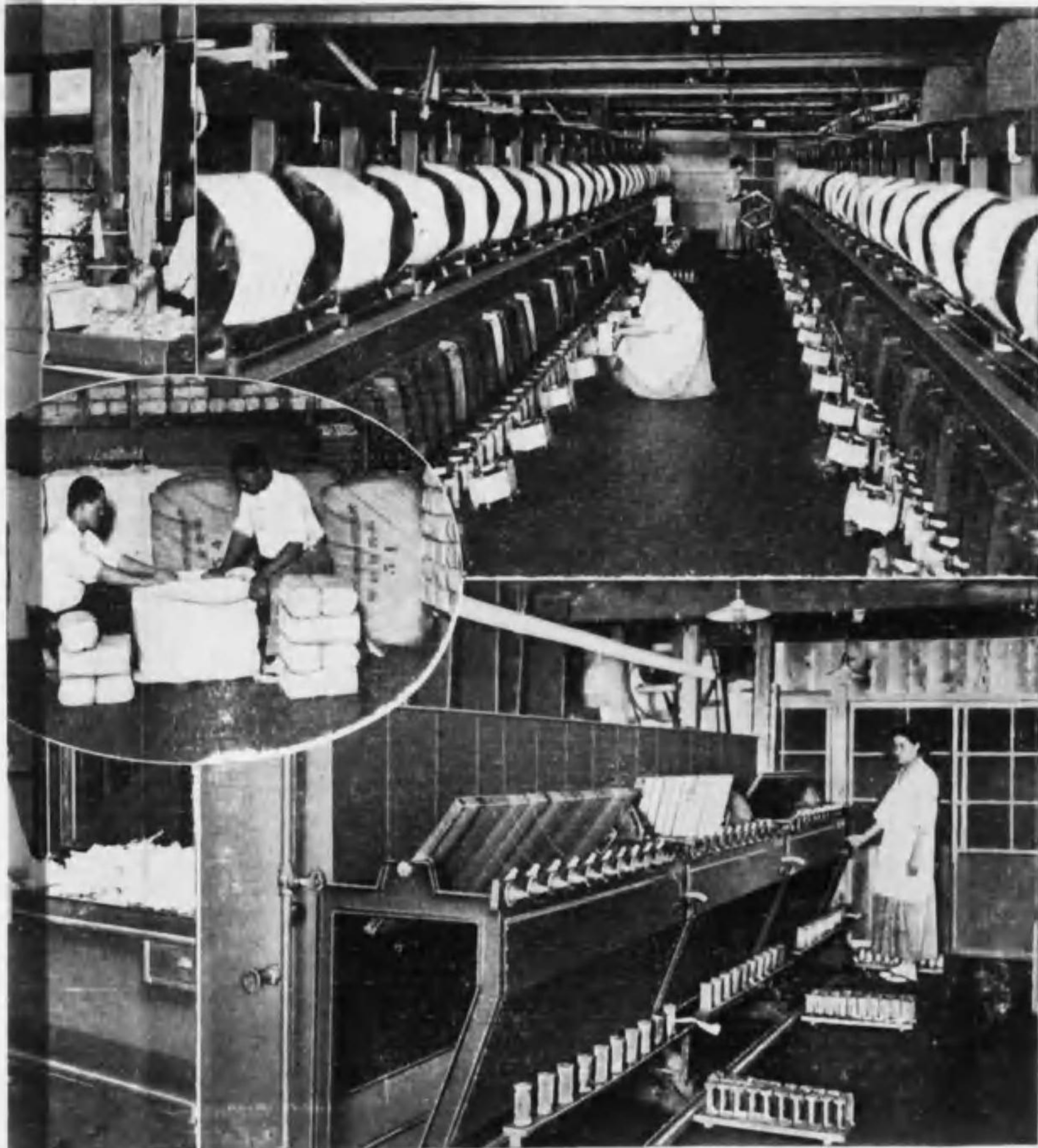
【3】繰 絲 (五 條)



【4】同 (二 十 條)

【5】揚 返

【6】セリアレン検査捲取



【9】荷 造 (中 央)

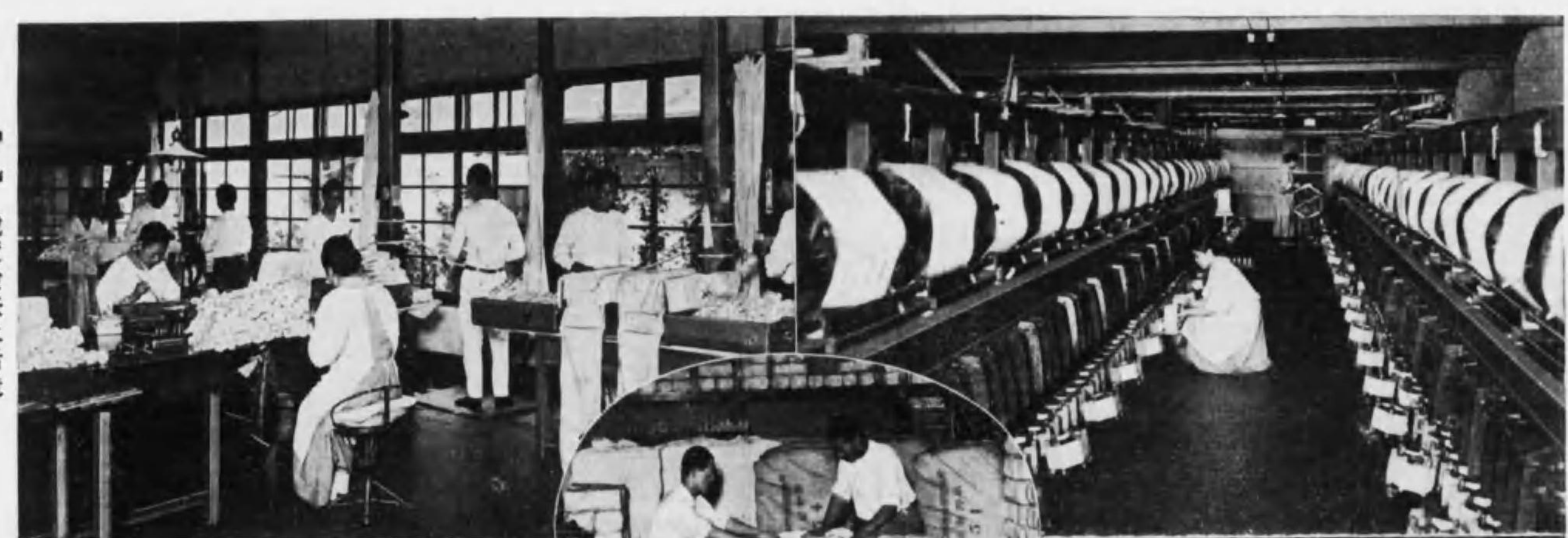
生 絲 作 業 工 程



【3】 繅 絲 (五條)



【4】 同 (二十條)



【5】 揚 返

【7】 織度検査及括造



【6】 セリブレン検査捲取

【8】 光澤検査及括造

【9】 荷 造 (中 央)

一、諏訪製絲業の沿革

近時隆々として發展し駁々として長足の進歩をなせる我諏訪郡の製絲業は如何なる動機によれるか將た如何なる素因の存するか其由つて來たる經路を尋ぬるに徳川時代に在りては郡内總て高嶋藩領に屬し土地高燥にして山地多く爲に米作に好適ならず且つ冬季寒氣嚴にして併も其の期間長く一ケ年中約五ヶ月にも亘り野外耕作不可能なるは著るしく農民の生活を困難ならしめ茲に於て種々なる副業考案せられ畑地を利用して桑樹を植ゑ付養蠶の業を盛にし冬期を利用して家庭工業的に製絲の業を營むに至る然して之を藩外に移出せるは寛政の初年「ノボセ」と稱して（手引絲を製し上方へ販賣するを以て「ノボセ」の稱あり）始めて手引提絲を製し之れを西京西陣及濃州岐阜に販出せしを以て嚆矢とす降て安政六年九月に至り平野村林善左衛門なる者始て横濱へ輸出し海外の販路を開きたり其絲は鐵砲造にて百斤に付「ドル」幾個「天保」幾個と云ふ賣却方なりしと云ふ如斯始て海外の販路を得たるより同村林源次郎、清水久左衛門等上州伊勢崎より座繰器械を持來り大に行はれたり明治六年東京の豪商小野善助なる者見る處ありて上諏訪村深山田（地藏寺附近）に百人繰の製絲器械を建設し伊國の製法を模倣し生絲を製造せり是を本郡器械製絲の創始とす尋

て郡内各所に器械製絲の業を開始する者漸次増加し同八年平野村武井代次郎等一社を團結し中山社(後平野社と稱し明治廿九年又進工社と改稱す)と稱し上州富岡の工場を模して製絲器械を設置す同九年下諏訪村に白鶴社上諏訪村に鷺湖社同十年宮川村に山本社(後公信社)平野村に開明社(川岸村片倉兼太郎平野村尾澤金左衛門林倉太)皇運社(後の)等興り翌十一年白鶴社社員増澤市郎兵衛三井仁兵衛等相謀り舊勸農局に請ふて技術員中野健次郎外工女二名を備聘し以て製品の改良を圖れり又開明社々員片倉兼太郎尾澤金左衛門等によりて改良陶器鍋(舊來使用の鍋は管を銅にて製造せしを改)の効用發見せられ之れによりて製絲をして天然の美質を損せしめず純良光澤ある佳品を製造する事を得たるのみならず著しく絲量を増加するを以て各當業者舉て之れを使用し延て全國に普及するに至れり由來製絲業の勃興に伴ひ其の必要とするものは用水と原動力とにあるを以て先づ製絲を創業せんとするには第一着に其の地勢を選択せるを要素と爲す、諏訪湖の水良く製絲に適合し天龍川は水車工作に據り原動力とし一舉兩得の故を以て此の附近に工場を密集せるの所以想像するに難からず

明治十四年繰絲揚返しの必要を感じ白鶴社に於て再び技術員中野健次郎を聘し揚返し場を設け精密の審査を爲し製絲精粗を均一ならしめしより各社亦之れに倣ひ努めて品位の改良を圖り勢價頓に騰り需用益々増加して今日あるの基礎を致せり當時の繰絲釜數は一千三百六十餘にして生絲産額六千六百餘貫を算し佛國向七分米國向三分を製出したるも明治十六年頃より過半米國向に變したり

一、諏訪製絲研究會

諏訪郡の製絲業は明治十五年に總釜數千三百にして十年後の明治二十五年には八千四百二十釜となり明治三十五年には一萬四千釜に達せり以て本郡に於ける製絲業の逐年進歩發達の状態を窺知するに足らん然り而して此時代に於ける我郡は交通運輸極めて不便にして北信地方及關東地方より原料移入は皆和田嶺の嶮を越し安筑及濃飛地方より移入は、壘尻峠を越すに非ざれば得る事能はず、又上下伊那地方よりするものは天龍川の谿に沿ひて人馬の脊を頼むより外途なく爲めに僅々十里内外の近距離も二日以上の日子を費して尙意を滿たす事能はざりき。

特に工場經營に付最も苦痛と困難を感ずるは職工募集を以て隨一とす。然して事業擴張の過程にあり殊に其の製品に於て熟練工を尊重する製絲工業にありては、釜數の増設と職工の増員とは到底同率に進み難く加之釜數に對し職工數は三割以上多く募集するに非ざれば諸種の故障の

爲め常に空釜を見るに至るべく、然して職工は事業の性質上契約は總て一ケ年にて更新し、冬期歸郷する慣習なるが故に募集は毎年十二月より翌年一、二月の間に完了せざるべからざるを以て此期に於ける各製絲工場募集従事者は何れも熟練工の争奪に狂奔し、權謀術數を弄し互に先を争ひ契約を競ふの結果被雇者及保護者の乗する所となり、二重若くは三重契約を取てして契約金又は前貸金を詐取するもの多きに至り、愈々引揚入場の際に甲乙丙若くは數工場の間問題を引き起し募集従事者間に争闘を生じ職工の争奪頗る劇甚を極むるに至れり。

茲に於て識者觀る所あり明治三十五年十二月平野、川岸、湊三ヶ村の同業者三十一名協議の上同盟組合を組織し、之が對策として組員一度傭入れし女工は互に之を争奪せざることを約し各自の傭使する職工は之を登録して同盟者間に於ける職工争奪の弊を一掃し、互に徳義を重んじ協力一致して斯業の發達隆盛を期する爲め、規約を締結し事務所を設け事務員を置き職工の登録、職工募集許可出願の手續、職工團體乗車事務其他の諸務を取扱ふ事とせり。爾後諏訪人の製絲經營方法成功し縣内は勿論全國に諏訪系統の製絲工場陸續設立せられ、組織當時の加入者總釜數は僅かに五千釜に過ぎざりしが、爾來次第に其數を増加し、明治三十八年には郡内八千釜を超へ郡縣外を合せて一萬二千五百釜となり、以後平々歳々發展増加の盛運を來し、大正十

年に至りては加入者百二十四名郡内の製絲釜數三萬四千従業せる職工は男女合せて五萬人に上り、生絲の産額は九十萬貫其の價格は約一億圓に達す。此外加入者の郡外に有する釜數三萬五千餘釜なり。尋て大正十三年は一府二十六縣及朝鮮に亘り七萬六千釜を有し、其生絲の産額は二百五十萬貫餘、其價格は約三億一千二百五十萬圓を算す。又大正十四年の半より同十五年に至りては郡内釜數三萬二千餘釜、郡外四萬五千餘釜を有し、工業主は常に絲質の改良は勿論繰絲の方法の改善に意を注ぎ從來の四條繰りは漸次減少し、五條繰り六條繰りとなり生産額も次第に多く縣内外の生絲産額は今や二百七十八萬貫餘り此の價格三億三千三百六十餘萬圓を算す。而して其の原料繭は之を全國各地及遠く支那朝鮮に仰ぎ我加入者工場に於て製出する生絲の産額は實に本邦輸出額の三分の一強を占むるの盛況にて、尙益々發展の狀勢を呈せり。

然るに本同盟の職工登録制度は時代に不合理なりと偶々本縣工場課の慫慂により遂に此の制度は廢止するの已むなきに至り、大正十五年二月二十八日限り之を斷行し同年五月十二日を以て從來の製絲同盟は諏訪製絲研究會と改稱し會則を改正し、會員相互間に於ける意志の疏通を計り協力一致し徳義を尊重し、一意斯業の發達隆盛を期し其の功績顯著なる故を以て昭和二年四月十一日大日本蠶絲會團體表彰規程に依り表彰せられ、總裁閑院宮殿下より表彰狀を賜はる。

爾來會員の協力團結を以て、法規の研究及各種公私團體及官公衙と聯絡提携して目的運用の圓滑、斯業發達に關する調査並施設、職工の團體輸送取扱等荷も製絲業に關係ある百般の事務を取扱ひ今日に至る。

委員長 (會長)

明治三十六年一月一日 委員長就任
 同 年十二月 解任
 明治三十七年一月一日 就任
 大正五年二月三日 引退
 大正五年二月二十四日 就任
 大正六年四月二十五日 製名片倉兼太郎ト稱ス
 大正十五年五月十二日 會長ト稱ス
 昭和九年一月八日 死亡
 昭和九年三月三日 就任

副委員長 (副會長)

明治三十六年一月一日 副委員長就任
 大正五年五月二十五日 死亡
 大正五年六月一日 父小口善重ヲ襲名
 同 年七月九日 副委員長就任
 大正十五年五月十二日 ヲリ副會長ト稱ス
 昭和九年三月三日 會長就任ニ付解任
 昭和九年四月三十日 辭任

片倉 佐一
 片倉 兼太郎
 片倉 兼太郎
 小口 善重
 小口 善重
 高木 林次郎

昭和九年五月一日 就任

事務長 (事務所長)

明治三十六年一月一日 就任
 同 年三月 就任
 明治三十七年 就任
 明治三十八年十一月二日 就任
 大正元年二月五日 就任
 大正元年四月十五日 就任
 大正二年四月十五日 就任
 大正二年四月十五日 就任
 大正十二年四月十五日 死亡
 大正十二年三月三十一日 就任
 昭和二年四月一日 就任

片倉 義美
 降幡 倉藏
 降幡 暉治
 藤森 織衛
 足助 近太郎
 山田 兼義
 山岡 孫作

一、長野縣製絲業組合諏訪支部

明治三十五年重要物産同業組合法に依り諏訪郡一圓を區域とし諏訪生絲同業組合を組織し、片倉兼太郎組合長となり諏訪郡役所内に事務所を置く。其後同人引退するや尾澤琢郎其後を襲ふて組合長となり更に二代目片倉兼太郎組合長となり、大正十五年郡役所廢止と共に事務所を平野村諏訪製絲研究會事務所内に移し、昭和六年三月蠶絲業組合法發令により昭和七年一月長

野縣製絲業組合諏訪支部組織せらるゝに方り同人亞て支部長となり、同八年九月同人辭任により今井五介支部長となり今日に至る。

此間組合員相互の氣脈を通じ協力一致して營業上の弊害を矯正し斯業の改良發達を圖り同業者間に生したる紛議の仲裁、事業上に於ける規格統一並研究調査、指導獎勵、他郡市同種の組合との聯絡、行政廳の諮詢に應じ又は意見の上申、生絲及副産物販路の擴張、交通運輸金融機關の完全を期する等の事業を施行し其の放果により釜數及生絲産額等別表に示すが如き盛況を呈するに至れり。

一、諏訪郡交替休業制工場主組合

我國の工場法は保護職工に對して毎月二回以上の休日と與ふべき事を定めて居るが、其の休日の配置につきては別に定むる所が無い。依つて工業主は大體十五日一回の休日を定め一日、十六日、又は十五日、末日として實行して居るのである。

然るに工場經營者は工場設備の經濟的利用方法を考究して、職工には月二回の休日を完全に與へ然も工場を一日も空けないと云ふ事を案出し、職工を組別として交替に休業せしめる事とし

たのである。

然して其の實施方法として諏訪郡交替休業制工場主組合を組織し事務所を諏訪製絲研究會事務所内に置き、片倉兼太郎組合長となり保證金の制度を設け、職工をして休日をも最も有効に利用せしめる爲補習教育の機關を完備し娛樂慰安の施設を爲し、工場法規の運用に就ては工業主相互間に於て恪守勵行に努力し昭和二年二月本縣知事の承認を得て實施する事となつた。

其の當時加入者十四工場釜數一万四千四百九十五釜、職工數二萬九百六十九人、積立保證金一万八千圓なりしが昭和六年度に至り工場數七十一工場、釜數二万一千六百九十五釜、職工數二万九千三百五十三人、積立保證金二万六千八百圓となつた。而して其の事業として職工補習教育及福利施設の完備を指導し職工の學術、技藝、思想、風紀の向上等を獎勵し昭和三年御大典紀念として當組合補習教育の効果を一般に紹介せしむべく大展覽會を開催し、縣知事を總裁に仰ぎ職工の裁縫手藝及國語教育に關する製作品を陳列し七日間一般に公開せるを初とし、其の後製絲從業員福利展覽會と名づけて昭和四年及同八年の前後を通じて三回に亘りて開催各七日宛公開し、當組合施設の効果は博く社會の認識する處となれり。

一、諏訪郡内生絲共同施設組合現況

(昭和九年九月三十日現在)

組名	所屬工場數	同上釜數	揚返窓數	設立認可年月日
保證責任上諏訪生絲共同施設組合	一四	七五	五四	九、三、二六
保證責任丸起岡谷生絲共同施設組合	一〇	六八	五〇	九、三、二六
保證責任下諏訪生絲共同施設組合	一〇	三〇	三八	九、五、一四
保證責任公明社生絲共同施設組合	五	五三	四〇	九、五、三三
合計	三九	二、八五	一、七四	

一、縣内器械製絲工場釜數並生絲製造高累年比較表

年次	項目	工場數	釜數	原料備使用高	生絲製造高	就業日數	對生絲製造高	對生絲製造高
大正元年		五八八	六〇、九七八		一、九一六、三八一		一五、一七三	
二年		五八五	六三、〇六八		一、〇〇六、六七五		一五、九六二	
三年		五六八	六四、二七九		一、三三八、七一五	二五二	一七、七一五	七一
四年		五五六	六四、四二九		一、〇三二、〇七六	二五二	一六、〇〇三	六九
五年		五九七	六八、九八七		一、一八〇、五二八	二五九	一七、一一二	六九
六年		六六一	七六、四三三		一、三七一、六九一	二四七	一七、九四七	七三
七年		七一九	八三、五五〇		一、四八四、七四五	二六三	一七、七七二	六八

一、諏訪郡川岸、平野、湊三ヶ村製絲工場數及釜數並職工數 (前年六月ヨリ其年五月迄)

年次	項目	川岸村		平野村		湊村		
		工場釜數	職工	工場釜數	職工	工場釜數	職工	
八年		七四六	八五、六三六	一、六七七、六七五	一、六〇〇、九九九	二五六	一八、六九四	七三
九年		七〇二	九〇、〇〇〇	一、九七七、〇〇八	一、九三三、九三七	二四五	二一、四八八	八八
十年		七三三	九〇、二六六	一、五八四、四九七	一、三九五、〇三五	二五七	一五、四五五	六〇
十一年		六九四	八六、三〇〇	一、八七六、五〇五	一、八八九、〇五二	二五三	二〇、八八九	七〇
十二年		六七一	八四、八二五	一、七六二、七四四	一、七一一、一九五	二三八	二〇、一七六	八八
十三年		六三三	八二、四八一	一、七二〇、〇四五	一、七七〇、〇二四	二四四	二一、四六〇	八八
十四年		六三〇	八〇、五九九	一、九八九、三九九	二、〇二七、七八九	二六二	二五、一七七	九六
十五年		六二六	八〇、九〇〇	二、三〇五、七九四	二、二七五、六九四	二六四	二六、一一四	一〇六
昭和二年		六四一	八三、五五五	二、三〇五、四二五	二、四五一、八三五	二六六	二六、四六七	一〇三
三年		六四四	八七、三四九	二、四〇六、九五〇	二、五三三、六七六	二六九	二六、八八〇	一〇七
四年		七二五	八六、一三五	二、四二一、四八九	二、五二五、六二二	二六六	二九、二〇五	一〇〇
五年		七三三	八四、一七七	二、四八六、五七九	二、六五七、六九七	二五一	三一、五六一	一〇六
六年		七〇八	八一、六三九	二、三八九、四三四	二、三六七、六三三	二六〇	二九、〇〇一	一一一
七年		六六四	七〇、七六五	二、三五六、八九七	二、二八八、四七一	二六六	三二、三三九	一一三
八年		六三七	六五、九八二	二、六八四、〇八三	二、一五一、七七七	二二六	三六、一三七	一二二

大正六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
七	八	八	六	七	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六、六八三	七、二九八	七、二九三	六、八三五	五、三六四	五、五五六	五、四八八	五、五六六	五、三六九	五、二七四	五、二九八	五、三〇四	五、五六一	五、六八九	五、五四四	四、九六六	四、五八八	四、五六八
六、四三三	六、七三	七、一五	七、八三	七、八一	五、三五	七、〇三	七、二四	四、八三	六、七〇	六、〇八	六、〇八	六、七八	六、七八	六、三三	五、三	七、〇五	七、〇五
七、〇六三	七、六六五	七、〇五六	七、七二四	六、一六	五、八四一	五、八四一	五、五八九	五、七二九	五、八一四	六、一四〇	六、一三九	六、六七五	六、三六三	六、三七九	五、六〇一	四、九三八	四、九三八
一〇二	九五	一〇五	八六	九二	九六	八三	八一	八〇	八〇	八七	一五三	九二	九二	九六	九五	一〇九	一〇九
一九、九〇四	二〇、三四七	二〇、一三五	二二、〇五二	二二、七二七	二二、五九二	二〇、五七五	二〇、八四三	二〇、六四二	二〇、四二四	二〇、六四一	一九、八一五	二〇、七二三	二〇、七四八	一八、二三八	一六、二二四	一三、八六〇	一三、八六〇
二、二〇六	二、〇五八	二、一三五	三、〇四四	二、五〇六	二、二六四	二、六二五	二、五二〇	二、九九〇	二、〇四二	二、二九七	二、四六二	二、五三五	二、五〇三	二、〇三〇	一、八二四	一、八七七	一、八七七
二二、三三七	二二、四五一	二二、二五〇	二二、三五〇	一九、七五九	二二、〇九九	二二、〇九九	二〇、七五七	二二、八九六	二二、〇四五	二二、三七六	二二、八七九	二二、九三七	二二、五二〇	二〇、八〇三	一七、七二〇	一四、九六九	一四、九六九
三六	三七	三六	三三	三三	三三	三三	二九	二九	二七	二七	三三	三三	三三	三五	三四	三五	三五
二、四八九	二、六九三	二、三〇七	二、〇七五	一、八三三	一、四七一	一、四七一	一、七三三	一、六七九	一、六九三	一、八一六	一、九七四	二、〇五九	二、〇一四	二、一三八	一、八六九	一、五〇〇	一、五〇〇
一、六三	一、八一	一、七三	一、八九	一、四六	一、五二	一、六七	一、四九	一、六七	一、六〇	一、七六	二、六〇	二、六八	二、二八	二、五三	二、二六	二、〇六	二、〇六
二、四八四	一、五六三	一、九二六	一、八三三	一、四〇三	一、四〇三	一、四〇三	一、五四七	一、六四四	一、七五六	一、七五九	二、一九五	二、四〇一	二、二四八	二、三三六	一、九四九	一、六四七	一、六四七

一、諏訪郡内營業製絲工場數並一日平均運轉釜數及使用職工數
 (自昭和八年六月一日至同九年五月卅一日)

町村名	種別		項目	業者數	工場數	設備釜數	内休業工場		一日平均運轉釜數	一日平均使用職工數	
	輸	出					釜數	計		男	女
川岸	輸	出	計	一七	三三	三、七九〇	二	一八〇	三、〇七二	六六三	四、七六七
川岸	輸	出	計	五三	五四	二、三九九	八	一七三	一、三三七		五、四五〇
川岸	輸	出	計	七〇	七六	六、一〇九	一〇	三五二	四、四〇九		
平野	輸	出	計	二八	四〇	一七、三三九	五	一、〇八六	二、八六二	一、八八三	二、四四七
平野	輸	出	計	七〇	七七	二、四一六	五	一八〇	一、二三五		一、六、二九〇
平野	輸	出	計	九八	一七	一九、六五五	一〇	一、二六六	三、〇九五		
淡	輸	出	計	七	九	九〇五	一	九六	六三四	一八四	一、五七八
淡	輸	出	計	三〇	三〇	一、一七六	二	五八	九四四		
淡	輸	出	計	三七	三九	二、〇八一	三	一五四	一、五七八		一、七六三
長地	輸	出	計	三	三	一、〇一三	一	一	八六〇	一一五	一、二六六
長地	輸	出	計	一八	一八	五三五	二	七四	三〇五		一、三八一
長地	輸	出	計	二	二	一、五四八	二	七四	一、一六五		
長地	輸	出	計	二五	二五	三、二六九	一	一	二、四一五		

長地	一	三六	一	一	一	一	一	一	一
下訪	二	三八	二	二	二	二	二	二	二
湖南	一	九四	一	一	一	一	一	一	一
合計	二	六〇四九	三	三	三	三	三	三	三

一、諏訪郡器械製絲年表

年次	項目	工場數	持主又代表者數	釜數	職工數		原料高	生絲生產額	內地向		就業平均數
					男	女			輸出向	內地	
大正五年		二二三	二二三	三、九三三	三、三五五	三、四六二	五八八、〇五一	五八〇、六六六	四三、〇一九	四三、〇一九	二四九
六年		二五三	二五三	三、七九四	三、七八七	三、九〇八	七三五、四二二	六四九、八九三	四四、三三四	四四、三三四	二四九
七年		二七一	二四八	三、七八七	三、五六七	三、三九六	七五九、三七九	六六五、四六〇	六八、四四九	六八、四四九	二五三
八年		二九九	二七五	四、〇四八	四、四一九	四、〇八二	七五二、九二九	六四一、二五〇	八〇、七六一	八〇、七六一	二五三
九年		二五〇	二四八	四、七六四	五、一八一	四、二〇二	八〇〇、八四三	六八〇、三五九	九六、五三三	九六、五三三	二四九
十年		二六七	二四一	四、〇八一	四、六一三	三、六六一	六六六、六六三	五二五、〇三三	七五、三六二	七五、三六二	二三
十一年		二六二	二四三	三、四三三	三、二〇二	三、六六七	七二九、九六五	六九三、六〇九	不明	不明	二五三
十二年		二六〇	二三二	三、八六九	四、五五三	三、八二五	八一七、一五三	七三三、〇九六	八六、五二九	八六、五二九	二四五
十三年		二五五	二三八	三、七〇四	四、四九一	三、七六一	八、一三三、〇二七	六九六、二三〇	一四、二二五	一四、二二五	二五七

一、長野縣內繭產額 (昭和八年度)

年次	繭戶數	春	夏	秋	計	春	夏	秋	計	就業平均數
十四年	二六〇	二二九	三、〇五二	三、三九三	三、三九三	九、七四八、六八四	七三七、一〇五	一三一、六四三	二五四	二五四
十五年	二六〇	二二三	三、八二二	三、六七七	三、六七七	一〇、七四二、八八六	九四一、八一六	一五三、四九四	二七一	二七一
昭和二年	二七五	二四〇	三、八〇四	四、〇七八	四、〇七八	一一、二六〇、七五〇	一、〇三二、四五三	一三、〇三九	二七四	二七四
三年	三〇三	二五九	三、九六八	四、八五四	四、八五四	一一、三五二、五〇三	一、〇四一、五三〇	一二、〇三二	二八〇	二八〇
四年	三二七	二七九	三、九四六	四、八三八	四、八三八	一一、三九七、四二一	一、〇五三、六〇三	一二、四六〇	二八〇	二八〇
五年	三三三	二八二	三、九〇六	四、六三一	四、六三一	一一、三五三、四〇六	一、一五三、六二二	一二、五〇〇	二八〇	二八〇
六年	三三七	二八五	三、七三〇	三、九六四	三、九六四	一一、〇八一、四〇五	一、〇八四、五五七	一二、一六八	二六八	二六八
七年	三〇一	三〇一	三、三三〇	三、五三〇	三、五三〇	一〇、四八四、五五七	九四八、七五三	一、八一、二五八	二六八	二六八
八年	三〇一	三〇一	三、三三〇	三、五三〇	三、五三〇	一〇、四八四、五五七	九四八、七五三	一、八一、二五八	二六八	二六八
九年	四〇六	三六四	二、七三三	三、九四四	三、九四四	三、三〇八、三〇九	七二六、二四二	二〇八、三九四	二六〇	二六〇

養蠶戶數	長野縣內產額		諏訪郡內產額	
	春	計	春	計
白繭	四、四三八、三五四	一三、二七八、二〇〇	六、七、八五四	九、八八、五三〇
黃繭	四、一八〇、七三六	三、八〇、九二五	二、六五、七六六	二、六三、七六六
計	八、六一九、〇八〇	一三、六六九、一三五	三、三三、六二〇	一二、五二、二九六

一、全國道府縣別蒔產額

(昭和七年度)

計			蒔			白		
計	蒔	白	計	蒔	白	計	蒔	白
價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量
二五、〇三五、六三三	二、二八七、五〇〇	二、〇〇九、〇二六	二六六、七二一	一六九、三二〇	八〇、六五九	二六六、七二一	一六九、三二〇	八〇、六五九
四、五九六、五三六	一一、九五四、二〇五	一三、〇八一、四〇八	三八二、六七六	一一、〇一〇	二、四八	三八二、六七六	一一、〇一〇	二、四八
二七、七四〇、五八四	八〇一、〇二二	二六、九三九、五七三	五七二、三八九	一四、三四〇	九、三〇二	五七二、三八九	一四、三四〇	九、三〇二
五二、七七六、一九九	二、四八六、〇九三	四〇、〇一八、九八一	四八一、三二五	一八三、六六〇	八九、九六一	四八一、三二五	一八三、六六〇	八九、九六一
九二八、八二四	七三一、五九〇	一九七、二六四	八、五四二	一七、九六二	六、六六〇	八、五四二	一七、九六二	六、六六〇
一、九七七、六四二	二六、六七四	一、九五〇、九六八	四八、五五五	一、三九	四九六	四八、五五五	一、三九	四九六
二、九〇六、四六六	七五八、二三四	二、一四八、三三三	七、一九一〇	二、六三三	七〇、〇一六	七、一九一〇	二、六三三	七〇、〇一六

蒔			玉			蒔			上		
計	蒔	白	計	蒔	白	計	蒔	白	計	蒔	白
價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量	價格 數量
六七九、六二九	二五〇、五〇七	二五〇、五〇七	二五〇、五〇七	二五〇、五〇七	二五〇、五〇七	二五〇、五〇七	二五〇、五〇七	二五〇、五〇七	二五〇、五〇七	二五〇、五〇七	二五〇、五〇七
一、〇六六、七八三	五〇四、三〇七	五〇四、三〇七	一、〇六六、七八三	五〇四、三〇七	五〇四、三〇七	一、〇六六、七八三	五〇四、三〇七	五〇四、三〇七	一、〇六六、七八三	五〇四、三〇七	五〇四、三〇七
一、七四六、四二二	七五五、八二四	七五五、八二四	一、七四六、四二二	七五五、八二四	七五五、八二四	一、七四六、四二二	七五五、八二四	七五五、八二四	一、七四六、四二二	七五五、八二四	七五五、八二四
二六、二八一	九六六、九八	九六六、九八	二六、二八一	九六六、九八	九六六、九八	二六、二八一	九六六、九八	九六六、九八	二六、二八一	九六六、九八	九六六、九八
七八、六一七	三三、六五三	三三、六五三	七八、六一七	三三、六五三	三三、六五三	七八、六一七	三三、六五三	三三、六五三	七八、六一七	三三、六五三	三三、六五三
二〇四、八九八	二、六五	二、六五	二〇四、八九八	二、六五	二、六五	二〇四、八九八	二、六五	二、六五	二〇四、八九八	二、六五	二、六五

道府縣名	數量		計	總額	上滿一貫匁價格
	春	夏秋			
長野	四、四三、二二七	五、四二九、五〇五	九、九三二、七三二	三〇、九七一、九三三	三、三四
愛知	二、六一九、一〇〇	二、八八八、四四〇	五、四四七、五四〇	一六、七五五、六九六	三、三〇
群馬	二、六六〇、六九六	二、六六六、八六一	五、三二七、五五七	一五、五〇三、七〇四	三、一三
埼玉	二、五八八、一六七	二、二九六、六三八	四、八八四、八〇五	一三、二九五、四一三	三、〇四
岐阜	二、〇〇二、九〇四	一、七九一、五七一	三、七九四、四七五	一二、三四三、八四〇	三、四六
山梨	二、〇〇七、〇一一	一、六六一、五二六	三、六六八、五三七	一一、四八〇、一五七	三、三三
茨城	一、七〇〇、〇三七	一、八〇〇、〇九六	三、五〇〇、一三三	一一、四九九、二七〇	三、五一
福島	一、九〇六、四七三	一、五六一、四〇八	三、四六八、八八一	一一、〇八九、〇六三	三、四四
三重	一、六六一、二七三	一、五九二、四〇六	三、二五三、六七九	一一、九二一、一三三	三、九一
熊本	一、二六四、八三三	一、四八二、八八二	二、七四七、七〇四	一〇、一八六、三八九	四、〇八
山形	一、二五六、二八二	一、二六五、二八二	二、五二一、五六四	九、三五七、九四四	三、九八
徳島	一、二二二、〇六八	一、〇一八、二九二	二、二四〇、三六〇	七、七七四、四八〇	三、六六
千葉	一、〇〇五、一八〇	九四九、八八六	二、一五五、〇六六	六、六二七、七三四	三、二八
鹿兒	一、〇三二、〇三二	一、一三〇、一八一	二、一六二、一六一	七、五五五、二七五	三、八〇
鳥取	一、〇一八、一四五	九六八、九〇〇	二、〇九四、〇五五	六、四四五、五九三	三、三〇
鹿島	九八三、八九九	九八五、四一九	一、九六九、三二八	七、〇〇七、九〇七	四、〇一

道府縣名	數量		計	總額	上滿一貫匁價格
	春	夏秋			
岡山	一、〇三九、二〇八	八二七、六〇七	一、八六六、八一五	七、〇七六、六九九	四、〇五
高知	八七一、一九三	八〇七、二二六	一、六七八、四一九	六、六二二、六〇九	四、一六
宮城	八八五、六九六	七六二、四九九	一、六四八、一五五	五、八四二、〇九六	三、六九
京都	九五〇、一八〇	六九四、五七四	一、六四四、七五四	五、三七一、五三三	三、四九
大分	九四二、〇二七	六六九、二五五	一、六一三、二八二	五、八八八、〇八九	三、九一
兵庫	七九五、一九六	八〇八、七四三	一、五九二、九三九	六、八二二、二七七	四、四〇
新川	一、一〇五、九八四	四九一、九一九	一、五九七、一八三	五、七六三、五三五	三、七七
神奈	九二一、六七九	六二二、七四七	一、五三四、四二六	四、二八八、〇三三	三、〇二
宮崎	八二八、一八四	七〇四、二〇七	一、五三二、三九一	四、八二八、七八一	三、四一
東崎	七二五、五〇一	七七八、二四二	一、四九一、七四三	五、九一七、五九五	四、一七
廣島	六七九、〇六三	六九四、九七五	一、三七四、〇三八	四、〇三六、八四〇	三、一九
福岡	五九〇、〇八五	五八〇、五四〇	一、一七〇、六二五	四、三四四、六五二	三、九六
岩手	六二九、六七四	五三三、一〇一	一、一六二、七七六	四、二三三、五九六	三、八九
和歌	八九五、四四二	二二六、四六一	一、一三一、九〇三	二、八二二、九九五	二、六八
長崎	五七三、九二〇	四三八、二二八	一、〇一一、八五二	三、五九八、三〇五	三、七五
長崎	四九九、六五〇	五二二、二〇二	九三二、三六五	三、四九三、二三五	三、七六
栃木	四七四、四三二	四四七、九三三	八八三、一四三	二、八二五、七三二	三、三〇
佐賀	四二七、九三三	四五五、二三〇	八八三、一四三	三、四九八、六〇二	四、二〇
佐賀	三八三、二七三	三三〇、九四四	七一四、二一七	二、七三三、八四七	四、〇八

諏訪郡營業製絲原料仕入並生産品販賣高町村別表 (自昭和八年六月一日至同九年五月卅一日)

町村名	原料仕入		輸出生		販賣高		副産物收入高
	数量	價格	数量	價格	数量	價格	
石川	三二四、九三三	一、五八八、六六七	一七、三九二	六〇五、六三三	一、八六六、九七一	三、三八	
滋賀	二九〇、六九二	一、〇二二、五三四	三五、五八三	一、〇六三、三〇四	一、八四〇、一五三	三、四二	
山口	三三六、三三八	一、〇〇〇、四六三	三三、五八三	一、〇六三、三〇四	一、四〇二、五五四	三、五二	
香川	三二七、四八四	一、九六、〇〇五	八六、九一五	三、〇六七、七五〇	一、四三七、〇九六	三、六〇	
福井	二二三、九八五	一、六一、四五一	一六二、四五一	四、六八五、四二六	一、二四五、一五六	三、四六	
秋田	二五九、七七三	九八、九一五	九八、九一五	二三八、六八八	六九六、九四四	三、一九	
富山	一三八、五六六	八三、五七六	八三、五七六	三三二、一六二	五八一、四三二	二、八三	
青森	六四、四七三	二五、四四二	二五、四四二	八九、九六四	二四二、二四一	二、八七	
沖繩	二八、七二一	三五、〇七七	三五、〇七七	五三、七六八	一五九、九二四	三、一五	
大阪	二二、〇七九	一七、三八三	一七、三八三	三五、四六二	一五二、二九九	四、〇四	
北海道	二〇、九五四	一、八六六	一、八六六	二二、八二〇	四四、二八二	二、一四	
計	四六、三九一、四七八	四三、一五八、八五九	八九、五五〇、三七七	二九六、七九一、〇二六	平均	三、五四	

諏訪郡内製絲工場原料仕入地方別表

町村名	原料仕入		輸出生		販賣高		副産物收入高
	数量	價格	数量	價格	数量	價格	
漆地	一六六、六〇〇	一、五八八、六六七	一七、三九二	六〇五、六三三	一、八六六、九七一	三、三八	
長嶺	一六七、二六七	二、二七九、八八二	三五、五八三	一、〇六三、三〇四	一、八四〇、一五三	三、四二	
下諏訪	四七三、六三〇	六、五五七、八五五	八六、九一五	三、〇六七、七五〇	一、四三七、〇九六	三、六〇	
上諏訪	八三、八四七	一、〇三〇、八二九	九、〇一五	二九四、七五七	五九〇、二二一	三、六六七	
永明	八、〇五五	一〇七、四六〇	三九九	四、六七四	八七、七八一	四、六六九	
湖南	九九、四三三	一、四五八、三七五	二八、六四二	一、〇六九、〇六七	一、八一九	四九、八七四	
豊田	四〇、六六一	五七六、三五六	一〇、八九九	四、四九二	一、四七五	一九、二七二	
金澤	一一、二一〇	一、五八一、八六六	三、二四三	一、五二、二〇五	一、六一	六、〇六五	
玉川	七、三三四	八一、一七一	一、三六八	五八、九〇二	七八九	二五、一六七	
宮川	二、七七七	三五、五五五	四八一	一四、八〇九	二九三	一、七七三	
中洲	三、三三三、二六八	四四、〇九二、六五三	七六六、一九八	二五、四四四、〇七九	二九五、三二一	一〇、九七七、四七七	
合計	三、三三三、二六八	四四、〇九二、六五三	七六六、一九八	二五、四四四、〇七九	二九五、三二一	一〇、九七七、四七七	

仕入地方別・昭和八年度 昭和七年度 昭和六年度 昭和五年度 昭和四年度 昭和三年度

諏訪	七六五、一五五	一、〇九二、三八一	一、四八〇、〇三九	一、二〇六、六六六	一、〇三四、九二〇	八二五、九七四
東筑摩	一四八、六九四	三、六六六、六一	一九四、七五三	一、三五、三五二	三、五、二六二	二八二、〇三三
上伊那	八六、二〇五	一、八七、七〇一	三三、九一六	一、一五四、三八〇	一九六、九五三	二二、〇五一

南佐久	八二、〇三三	一八四、一〇九	六五、二五七	六八、二五一	七三、四八二	五四、〇九一
小松	六四、一七九	一〇一、八九七	一〇九、二七一	一四四、一〇三	一〇二、九二二	一〇九、七二七
長野	五六、五九〇	五四、八七五	六九、四九五	三〇、一九六	二〇、八七〇	一六、七五三
上野	四四、八四八	七九、〇五一	八七、二六一	九二、〇八三	六四、四三九	五七、三九九
上田	四三、七八六	一九、七二八	一九、七三三	二七、六三六	二五、五七三	二五、六四六
更級	三九、九七六	七四、二九一	六四、八三一	八二、四二二	八六、八二九	五五、一七七
北上	三九、九二四	一一七、八一九	一三三、七七一	一五五、六五七	一四三、三七五	一五四、〇二九
北安曇	三八、四九四	二〇、四三二	三〇、九八五	三六、七六五	一五、二〇四	二、八〇〇
西南	三四、三五九	六三、三三五	二四、六三一	五二、一九三	四四、二九二	四二、六二四
西筑摩	二九、七〇五	五四、一七九	四六、二二五	七四、六〇九	五一、二五七	八八、〇七三
下内	一四、五四八	三六、一四五	三五、三二〇	三七、二七七	七五、三七二	八六、二四九
埴科	一〇、四九一	一八、五六八	一一、三三七	四九、六八四	二九、二五三	三八〇
北安曇	八、〇〇五	一〇、九三三	六、九〇〇	四二、四七八	七五、九〇六	三八、八五三
下高井	六、五六一	七、〇七	八、八八〇	四、三三二	一一、五六九	六、四七八
下伊那	一、五三三、七三三	一、四九五	五二、三九九	五、四七七	六、五四五	五、八四〇
計	一、五三三、七三三	二、五〇一、九三三	二、六九七、三三三	二、五八四、七七七	二、三六、三三三	一、九七三、九六三
茨城	九八八、四四八	一、八八二、八八八	一、五〇五、九一七	一、五二九、三五〇	一、五五五、五二五	一、五〇六、五九九
千葉	七七七、四〇〇	一、四八六、四〇〇	一、四六八、九七二	一、五五二、九七三	一、四一八、一〇三	一、四九〇、二五九

埼玉	六七二、三二一	一、〇八三、三三〇	九三三、五〇三	一、一五五、二四一	一、一九二、九〇一	一、三三七、〇八六
山梨	四五四、三二一	六七二、五二四	五六八、七三三	四七〇、九七四	四二一、一一七	四〇七、九四〇
東京	二六六、八九六	三九七、〇九八	三三二、二六六	三六六、七三四	四〇三、四八〇	四一八、一五六
愛知	二二五、八五六	一一三、九二一	一一三、三九九	四三一、八八六	三三二、六〇五	二五三、八〇四
群馬	一一五、四三七	二六三、八一九	二八五、二二三	二〇八、二六五	二四一、四六七	二八八、四七五
静岡	一一五、四〇三	二二九、五〇一	二五二、六四七	五〇四、九七四	四五六、六五〇	四三六、九六八
宮城	一〇七、六八六	二七五、五六一	二六七、〇五三	二七三、七七五	一九二、〇二五	二五〇、六七九
福島	九四、七八四	二六八、七三三	二五四、一〇二	二七五、一五六	一五八、七六八	一五九、一八一
神奈川	七八、九五七	一五〇、五二五	二七〇、八八一	一八三、四八九	一一九、一五一	八七、九六〇
岐阜	七六、九四四	一四〇、七二二	一九二、四〇一	二八八、一八〇	一五三、七五四	一七一、四六〇
三重	六七、二五五	六七、六九五	三九、二二三	三四〇、四九五	二五六、四七五	三三七、二二三
三木	五二、七八九	一八六、五二九	一五五、九三三	一五三、八二七	一四三、三四五	一三七、三〇三
新木	四九、六二八	一五九、七三六	二六一、四五二	四一八、四七七	三三八、三四八	三九〇、七七六
山新	四二、八四四	四〇、五六三	五四、八四七	五六、九二二	六七、五七八	七一、五八〇
奈良	二六、三四八	四一、四〇九	六三、一五七	一七九、九八四	一七三、三五五	一五四、〇三七
廣島	二四、〇九六	四二、八五六	一〇、〇〇〇	一七四、七四五	一六八、一九九	七二、二二九
岩手	一四、八二五	六二、三二九	一三、七〇七	二七、〇〇〇	一三六、一四八	二〇四、五二二
滋賀	八、五三〇	五、八五三	四、一〇六	六三、六四九	六八、二二四	七六、一〇九
山形	四、九三八	一七、八三五	三六、八四五	一六、〇〇〇	二六、六〇〇	三三、四一三

出身地方	昭和八年度	昭和七年度	昭和六年度	昭和五年度	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度
東筑内	二、三九九	二、二〇〇	二、四四五	二、六二二	二、七四九	二、七〇四	二、七六六
上水内	一、〇五一	八六八	一、六九〇	一、六八一	一、六九〇	一、五五八	一、四〇七
更級	一、〇二五	九六七	一、三六九	一、四二二	一、四二三	一、四三三	一、三三六
北安曇	九、六	七八一	七〇七	八七七	一、〇〇一	九三五	六〇七
西筑摩	七九四	五九九	九六二	七九三	八八二	七五九	七三三
南安曇	六五四	五三三	六六六	八三六	一、〇一七	九〇五	八七三
下伊那	五七七	四六七	六四一	七二二	五二四	五〇九	三六五
下高井	五四三	四七三	七〇九	七二二	六七二	五三二	五二七
小高井	五二六	五五九	七〇九	八六六	九一八	八七一	七九八
南佐久	五三二	五七四	七五五	八六六	九一八	八七一	七九八
北佐久	五〇〇	四八八	七四一	八六六	九一八	八七一	七九八
上高井	四一四	四八八	六五〇	七五四	八六六	九一八	七九八
埴科	四〇九	四二二	五五五	七五四	八六六	九一八	七九八
下内科	三五一	二七四	六二〇	六三九	六三二	六三二	六二二
長内	一四二	一八二	三三五	四〇四	五三七	五三二	五二二
松本	二二七	九一	一七八	一八九	二〇四	二〇四	二〇四
上野	三六	四二	六五	一六五	二二四	二二四	二二四
計	二二、六四五	二二、六〇五	二二、〇五五	二二、四三四	二二、七六四	二二、七三三	二二、〇四四

出身地方	昭和八年度	昭和七年度	昭和六年度	昭和五年度	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度
南安曇	4	5	4	2	3	4	1
北安曇	17	33	27	8	40	51	2
松本	25	83	65	86	81	81	6
南佐久	5	52	34	60	44	44	4
北佐久	3	27	45	52	39	39	17
上縣	23	114	124	208	165	140	15
埴科	2	8	2	2	6	12	8
須坂	117	32	43	51	77	77	43
計	836	1,475	1,851	2,397	2,340	2,381	1,829
同業五組合	121	92	118	131	155	172	13
井高	21	104	125	125	125	125	125
野長	15	47	62	62	62	62	62
計	237	1,144	1,381	1,829	1,829	1,829	1,829
諏訪郡内工場従業工女出身地方別人員表	九、二五九	八、四〇一	九、〇七九	八、六五六	九、一三七	八、五二三	七、九四五
諏訪	三、四九九	三、四八四	三、三六五	三、五二一	三、六八一	三、八九〇	三、八〇六
上伊那	三、四九九	三、四八四	三、三六五	三、五二一	三、六八一	三、八九〇	三、八〇六

種別	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和十五年	昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年
輸出	1,019,911	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011
下諏訪	1,721,606	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122
計	2,741,517	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133
内川	50,685	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876
下諏訪	751,747	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001
計	1,252,432	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877

一、岡谷、川岸、下諏訪各驛生絲發送高調 (歴年度欄單位)

種別	年次	岡谷		川岸		下諏訪		計		内川		下諏訪		計	
		合	神	合	神	合	神	合	神	合	神	合	神	合	神
輸出	昭和十年	1,019,911	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011	1,130,011
下諏訪	昭和十年	1,721,606	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122	1,931,122
計	昭和十年	2,741,517	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133	3,061,133
内川	昭和十年	50,685	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876	55,876
下諏訪	昭和十年	751,747	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001	799,001
計	昭和十年	1,252,432	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877	1,354,877

昭和九年	昭和八年	昭和七年
合神横	合神横	合神
計戸濱	計戸濱	計戸
	四九、五九三	四、六三七
	四、七九八	二、五二六
	六、七九五	四、六三七
	四、〇六四	二、九七七
	四、五三一	四、〇六
	六、三三八	一、三三五
	二、二四	三、五五〇
	四、一九	五、一六四
	九、三八六	四、九七六
	六〇、三六二	五〇、一五七
	二、四三三	二〇、七三七
	五、二六六	三、二〇九
	七、八〇九	六、三三八
	三、五四八	三〇、一八四

一、岡谷驛重要貨物發着噸數調查表

(自每年四月至翌年三月)

大正元年	發着		到		着	
	生絲	生皮	米	石炭	噸數	本數
四年	三、六七九	三、二九六	八、七二九	七四、〇九八	三五、五九四	六、二六、〇四
三年	三、〇〇八	一、五三三	六、二二八	五四、〇九七	三五、七四七	五〇七、二二
二年	三、〇三三	二、二二七	六、六六三	六〇、二六四	三五、四六九	五三三、三三
元年	三、一七四	二、〇五一	五、七二九	五五、六四	二二、七〇	四六一、七五

昭和十五年	昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年
四、五八八	三、八七九	三、八七九	三、八七九	三、八七九	三、八七九	三、八七九	三、八七九	三、八七九	三、八七九	三、八七九
一、二五九	一、七七七	一、八八六	一、二八一	一、二八一	一、二八一	一、二八一	一、二八一	一、二八一	一、二八一	一、二八一
二、四四一	一、八四八	一、四九五	一、二八七	一、二八七	一、二八七	一、二八七	一、二八七	一、二八七	一、二八七	一、二八七
三、四八七	五、五四九	五、五四九	五、五四九	五、五四九	五、五四九	五、五四九	五、五四九	五、五四九	五、五四九	五、五四九
六、九六六	七、〇四六	七、〇四六	七、〇四六	七、〇四六	七、〇四六	七、〇四六	七、〇四六	七、〇四六	七、〇四六	七、〇四六
九、〇三三	八、〇三三	八、〇三三	八、〇三三	八、〇三三	八、〇三三	八、〇三三	八、〇三三	八、〇三三	八、〇三三	八、〇三三
九三、二五	一〇三、二五八	一〇四、四五	一〇一、九三〇	八七、八四四	九九、三二	九七、三六七	一〇六、九三七	一〇三、四八二	一一〇、三三七	一〇八、七二六
四六、八二四	五〇、八八〇	五六、八三	六一、一六〇	四三、五八九	五四、一六六	五九、一四六	六七、三三〇	七三、二九八	八一、二九二	七二、八〇三
七四八、九二	八四二、七七	八六五、四七八	九二九、九二〇	五二五、七三	七六五、二九三	八三三、三六	九二九、六五七	一一〇、一八四	一一〇、六四四	一一〇、六四四

一、信州系器械生絲橫濱入荷高調 各年一月ヨリ其年十二月迄 (日本銀行調査)

年次	項目		全國對信州系入荷高	信州系入荷高
	全國生絲	內信州系入荷高		
大正七年	四六八、六八八 ^半	二五一、五五五 ^半	五三、五三	八三、六三 ^半
八年	五二五、六四四 ^半	二七三、六三三 ^半	五三、二五	八六、四五 ^半
九年	三八九、六三七	一九三、五四八 ^半	四九、六八	五一、四五〇
十年	四六八、五七八	二四〇、〇〇三 ^半	五一、二二	六四、四五 ^半
十一年	五二七、二三六	二六二、九〇六 ^半	四九、八六	七四、六三四
十二年	四七〇、八五一 ^半	二五九、一九八 ^半	五五、〇〇	七一、五七九 ^半
十三年	五七一、七〇四	二〇六、〇〇七	五九、二〇	九二、四七〇
十四年	六四八、三三三	三三六、三七四	五九、五九	一一、三三四
十五年	六九一、六八九	四二二、三九〇	六〇、一〇	一一七、三六二
昭和二年	七六六、六八九	四二四、一八〇	五七、八〇	一一七、八二二
三年	六九六、四三三	三三七、七〇四	五五、六〇	一一〇、六九〇
四年	七四六、〇五一	三三七、七〇四	五五、六〇	一一〇、六九〇
五年	七五九、六一〇	三三七、七〇四	五五、六〇	一一〇、六九〇
六年	三七八、三九一	二二〇、五六二 ^半	五四、四〇	五八、七六一 ^半

一、全國道府縣別生絲產額 (昭和七年度)

道府縣名	七年	八年	九年	十年
愛媛	一、九六、一〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
兵庫	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
愛知	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
岐阜	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
山梨	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
群馬	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
山梨	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
埼玉	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
岐阜	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
京都	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
三重	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
福島	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇
山形	一、七二、六〇八	一〇八、〇二六	八八、〇九二	五三、八〇

道府縣名	數量	價格	道府縣名	數量	價格	道府縣名	數量	價格
長野	二、二五四、四九三、七四六、六三二	二、七〇九、〇五三	愛媛	二、六七、四五四	二、七〇九、〇五三	茨城	一、六五、九七〇	六、九八一、九八二
愛知	一、三三五、六八九、〇九〇、七九二	一、三〇九、四〇九	兵庫	二、六五、四七七	一、三〇九、四〇九	高知	二、五六、〇四三	七、〇〇〇、〇八七
群馬	一、一七六、〇三六、九八八、二五五	二、一八〇、八九九	熊本	二、一八〇、八九九	二、二九三、〇三三	鹿兒島	一、四〇、〇八四	五、九五二、九二六
山梨	五七、七六六、三六二、四〇〇	八、七四二、一八	靜岡	三、三五、四八一	八、七四二、一八	宮崎	一、三六、四七八	五、三六八、八三二
埼玉	四三九、八九一、七八四、三九五	九、二七七、三四五	鳥取	三、三二、三三三	九、二七七、三四五	東京	一、三五、四九四	五、五五六、七八三
岐阜	三六五、七五五、一四八、八三二、〇六三	八、八五六、一五四	德島	二、〇〇、三三三	八、八五六、一五四	滋賀	一、三四、七八三	五、〇五四、六七五
京都	三、四九、一一〇、一五〇、三七、五六二	八、一八〇、七三五	岡山	一、八八、八九二	八、一八〇、七三五	神奈川	一、二四、四八七	四、八二二、六九七
三重	三、三〇、六〇〇、一三、四三三、七七二	八、一六〇、二二三	島根	一、八〇、八三六	八、一六〇、二二三	岩手	一一、二二七	四、五六〇、三三八
福島	三、一九、〇九七、一三、二七五、七七七	七、二六一、五六八	新潟	一、七九、四一八	七、二六一、五六八	福岡	一〇五、八八一	四、六五八、五三四
山形	三、二一、三三九、一四、〇二三、〇五五	七、四四〇、一三六	大分	一、七七、二〇六	七、四四〇、一三六	和歌山	九〇、八二九	四、六七六、六八一

佐賀	七、八三三	三、二九三、六五三	富山	四三、四八六	山口	七、六二二	三五二、一六一
長崎	七三、二九八	三、一九〇、〇五五	香川	三三、三六三	神戶	九二七	二七、四六六
宮城	七〇、〇九五	三、一三二、七〇五	栃木	二二、三五八	青森	二九二	九、一七一
廣島	五二、八三〇	二、一六〇、七五六	石川	二二、五八二	大阪	二五〇	一七、五〇〇
福岡	四六、七九五	一、九九四、一三二	千葉	一三、一八八	北海道	六九	二、九三四
奈良	四三、〇〇七	一、八五七、六五四	秋田	一一、五三四	計	二、四六八、三九四	四六九、四七三、五八

一、生絲相場二關スル調査
1、横濱市場現物生絲相場年別表

年次	最高	最低	平均	年次	最高	最低	平均
明治四十二年	九三五	八二〇	八六六	四年	一、一五〇	七三五	八五〇
四十三年	九九〇	八〇〇	八六四	五年	一、三五〇	一、〇三〇	一、二四六
四十四年	九八〇	八〇〇	八五七	六年	一、七五〇	一、二二五	一、三七六
大正元年	九五五	八二〇	八四四	七年	一、六五〇	一、三〇〇	一、四七〇
二年	一、〇二八	八四〇	八九〇	八年	三、二八〇	一、三〇〇	二、二二八
三年	一、〇三〇	七〇〇	八三三	九年	四、三六〇	一、一〇〇	一、六六三

昭和三十二年	三十一年	三十年	二十九年	二十八年	二十七年	二十六年	二十五年	二十四年	二十三年	二十二年	二十一年	二十年
一、四〇〇	一、四九〇	一、四九〇	一、四二〇	一、七〇〇	一、四三〇	一、七〇〇	一、九五七	一、五八五	一、三七五	一、三二二	一、四二〇	一、一五五
一、二一〇	一、二七〇	一、二七〇	一、二七〇	一、二七〇	一、二七〇	一、二七〇	一、二七〇	一、二七〇	一、二七〇	一、二七〇	一、二七〇	一、二七〇
十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年	二十年	二十一年	二十二年
二、〇二〇	二、二二〇	二、四二〇	二、一六〇	二、一三〇	二、一三〇	二、一三〇	二、一三〇	二、一三〇	二、一三〇	二、一三〇	二、一三〇	二、一三〇
一、三九〇	一、五二〇	一、七八〇	一、四三〇	一、四三〇	一、四三〇	一、四三〇	一、四三〇	一、四三〇	一、四三〇	一、四三〇	一、四三〇	一、四三〇
一、五二一	一、九〇四	二、〇〇四	一、七八三	一、九五七	一、五八五	一、三七五	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二
四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	十六年
一、四二〇	一、一九〇	七六〇	一、二二〇	一、〇九四	一、〇九四	一、〇九四	一、〇九四	一、〇九四	一、〇九四	一、〇九四	一、〇九四	一、〇九四
一、一五五	五四〇	五〇〇	三九〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇
一、三三〇	八六八	五九三	六九八	七六一	七六一	七六一	七六一	七六一	七六一	七六一	七六一	七六一

2、横濱市場現物生絲相場月別表

月別	昭和六年度			昭和七年度			昭和八年度			昭和九年度	
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
一月	七六〇	六六〇	七〇八	六八五	六六〇	六七二	九五	六八五	七七〇	五八三	
二月	七二〇	六五五	六八四	六八〇	六二〇	六五九	七二〇	六六〇	六九四	六四三	
三月	六九〇	六三〇	六六六	六五五	五八〇	六一八	六九〇	六三〇	六五五	五七〇	
四月	六五〇	五九七	六二七	五八〇	五〇〇	五三九	八二〇	六四五	七二八	五三八	
五月	五四五	五二〇	五三二	五四五	四一五	四七三	八六〇	七六〇	七九六	五二三	

(單位圓)

一、横神兩市場及紐育市場生絲集散年別狀況

年次	項目	在荷高 (年初)	入荷高	地遣高	輸出高	在荷高 (年初)	輸入高	消費高
六月		六〇〇	五〇〇	九二七	五二〇	三九〇	四六三	四九四
七月		六〇〇	五五〇	五八五	六〇〇	五〇五	八四〇	四七四
八月		六三〇	五五〇	一、二〇〇	六〇〇	八九〇	八五七	四六三
九月		六三〇	五五〇	一、一〇〇	八六〇	九〇六	八五一	
十月		五六〇	五二五	九二〇	八五〇	七九五	七二三	
十一月		五五五	五五五	九七〇	八六〇	六四〇	五八六	
十二月		六四〇	五二五	九七〇	九三〇	五三五	五五五	
平均		七六〇	五〇〇	一、二〇〇	三九〇	一、〇九四	五二〇	七六一

一、横神兩市場及紐育市場生絲集散年別狀況

年次	項目	在荷高 (年初)	入荷高	地遣高	輸出高	在荷高 (年初)	輸入高	消費高
大正十一年		二二、〇八一	三二、一八六	二七、八五七	三四四、一九二	二四、八〇四	三九一、九九〇	三六七、六〇〇
十二年		二七、四七三	二六、七一二	三三、四八九	二六三、二八〇	四九、一七四	三五〇、二〇二	三五八、四一五
十三年		三八、七五九	三六、九〇三	三〇、〇三六	三七二、五六四	四〇、九五九	三八七、六七五	三六七、二〇一
十四年		二九、三七八	四二、二九五	一五、五一九	四八、四四九	六一、五三三	四八九、六三四	五〇一、三四三
十五年		三三、四六二	四五、八二九	一九、九七二	四四、九七八	四九、八二四	五〇四、二〇〇	五〇一、五四六
昭和二年		三三、五三三	五三、九六〇	一八、三三五	五二、七三三	五三、四七八	五三、四七一	五五二、三七九

一、累年營業製絲百斤生產費調 (自各年六月至翌年五月)

年次	項目	工	女工	貨	諸給料	費	料	公	課	其	他	計	一ヶ年	一ヶ年	平
三年		三九、三二〇	五三六、〇八五	一八、九五四	一五、七三三	五四九、二五六	五三、五四〇	四八、九〇八	五六六、三七八	五七二、〇〇〇					
四年		三六、四二九	六〇〇、八三七	二九、二四二	四七、七三三	五四九、二五六	五三、五四〇	四八、九〇八	六六一、六一一	六一九、七四七					
五年		四一、九七四	五九三、六〇〇	三三、三五六	五八、四三〇	五四九、二五六	五三、五四〇	四八、九〇八	五四九、八八七	五九二、三三九					
六年		二七、一六一	六二一、〇四三	三三、三五六	五八、四三〇	五四九、二五六	五三、五四〇	四八、九〇八	六〇五、九一九	五九四、八八九					
七年		四二、六四九	五四一、〇二〇	四二、六四九	五八、四三〇	五四九、二五六	五三、五四〇	四八、九〇八	五四七、一九五	五五三、八二八					
八年		二七、八二七	五三九、八五八	三七、九〇五	四八、四三〇	五四九、二五六	五三、五四〇	四八、九〇八	五〇三、三七六	四六九、四七七					
九年															

一、累年營業製絲百斤生產費調 (自各年六月至翌年五月)

年次	項目	工	女工	貨	諸給料	費	料	公	課	其	他	計	一ヶ年	一ヶ年	平
大正八年		二二、九〇〇	二一五、四四〇	三三、九四四	六五、六六七	五二、〇六六	二二、四二二	一四〇、八六六	四四二、二五五	二二、五六七					
九年		二二、〇三二	二一四、六六七	三七、二七七	五六、三三九	五三、四四〇	二七、八九九	一〇五、二五五	四三三、七九	二〇、七四四					
十年		一八、五五五	一〇九、二二二	三五、〇七	四八、四八	三九、四一	一八、三三九	一四九、七八	四一四、八三	二四、九五〇					
十一年		二二、二四	二二五、一四	三七、四三	四七、二五	四二、八八	二二、八三	二〇三、七	四九〇、四八	三三、四八八					
十二年		一七、〇七	一七、六五	三六、〇五	四七、八〇	四二、八五	八、五一	一八七、四〇	四七〇、三三	二二、九八八					
十三年		一四、八四	一三〇、五四	三三、二二	四七、三七	三七、六九	一一、〇五	一八四、一六	四五六、七六	二七、六一三					
十四年		一四、五九	二二八、九八	三四、一八	四六、三〇	三二、三三	九、六七	一八八、九三	四五三、九七	二七、三〇九					

昭和元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
九,七三	六,九七	六,九六	四,五二	三,二二	一,五三	一,六一		
二二,〇六	二〇,八九	九七,〇〇	八七,五三	七三,六四	四八,六五	五一,三〇		
三〇,九六	二八,三八	二八,〇七	二七,〇六	三三,八三	一六,二三	一〇,六二		
四二,四五	三七,七三	三四,四七	三二,二五	二四,六七	一七,七五	一六,七九		
二九,六七	二九,四四	二七,七八	二五,七八	二二,七九	一六,九〇	一七,四八		
九,九一	六,五七	五,三八	五,二九	四,二三	二,四三	二,六八		
一七,五,九〇	一七,七一五	一八,一八六	一六,三四三	一三,〇八一	一〇,六五五	八,五三七		
四一九,六七	三九五,一九	三八一,五五	三四四,五四	二八三,〇七	二〇四,一一	一八四,三七		
三〇,六一三	三一,九一〇	三一,一〇〇	三一,九三〇	三一,六九八	三三,八二五	三一,八九四		
一〇六	一一三	一〇七	一一〇	一一六	一二三	一二七		

果年産業組合製絲生絲百斤生産費調 (自各年六月至翌年五月)

大正八年	九年	十年	十一年
一五,〇〇	一三,一九	九,二六	四,四七
一三八,七〇	二七,九〇	二六,四二	二五,七〇
四三,一六	四六,五七	四六,〇四	四二,〇三
七三,二〇	六九,六四	五二,一八	四六,五四
六七,七〇	七七,七五	七七,七五	六,九四
八〇	一,三四	一,〇三	一,〇八
一七一,九二	一七一,五七	一四四,四二	二〇〇,五五
五二〇,四七	五〇七,九三	四三二,二八	四七六,二八
一一〇,〇	一一七,〇	一一七,〇	一一〇,七

十二年	十三年	十四年	昭和元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
三,九七	五,五四	二,三三	一,九四	七,八	六,六	六,〇	二,四	一,一			
一一五,〇九	一一三,四五	一三〇,四三	一一三,三三	二二七,七七	二〇五,八〇	九八,九六	八〇,一四	五九,五七	五七,五六		
四〇,五九	三五,五五	三七,九六	二四,五五	三四,六三	三二,九五	二八,四八	二五,一一	二二,六	一三,四九		
四一,五七	四四,七三	四五,一一	三九,二五	三七,一四	三三,八九	三二,二九	三三,四〇	二〇,四五	一八,四七		
五五,九二	九二,八六	四三,三〇	三五,四九	三五,四〇	三〇,四〇	二六,六八	二六,六七	二二,九三	二〇,六三		
一,三〇	二,〇九	二,三〇	二,二四	一,一四	二,一五	二,三〇	一,六六	二,五五	一,八四		
一七三,三〇	一四七,二三	一五二,一九	二二七,五三	二二二,八八	一四九,四二	一三一,五五	一〇一,五九	九七,三四	七八,一三		
四六,六八	四〇二,〇九	四一四,七八	三六七,九八	三六〇,八四	三三七,五二	三三三,七六	二五八,七九	二三三,五四	一九一,二三		
一一〇,〇	一一九,七	一一七,〇	一一四,九	一一四,九	一一四,〇	一一四,四	一一三,五	一一三,〇	一一三,〇		

横濱神戸生絲輸出高 (事業年度自七月至翌年六月) (税關統計)

年次	米國	英國	佛國	濠洲	其他	合計	米國	英國	佛國	濠洲	其他	合計
大正六年	三三,八二	六,八九	三,七三			四四,三二	三三,三〇	九,八八	三,八〇			四七,〇〇
七年	三六,五九	七,六六	三,五九			四七,八四	三〇,六二	一〇,二八	三,九〇			四四,八〇
八年	四一,八四	一,六六	一,八八			四五,三八	三三,三五	三,九〇	二,一三			四〇,三八

其他

教授時間及教室割當表

科目	時間	自午前八時	至午後九時	自午後九時	至午前十一時
	時間	至同九時	十分間	十分	十分
科目	國語	休息	裁縫	休息	隨意科目

裁縫に關する教授用具

- 小手板 五人に一ツ宛
- 燒小手 五人に一ケ宛
- アイロン 二十人に一ツ宛
- 火のし 二十人に一ツ宛
- 仕上臺又は火のし布團 二十人に一ツ宛
- 物指 半米を總人員へ一米を二人に付一本
- 霧吹 十人に一ツ宛
- 部分縫の標本各種 二人に一種

實物標本 二人に一つ

標本戸棚

器具入戸棚

實物を得られざる時の練習用材料を備付置くこと

織物標本(實物の値段を付したるもの)

二、家事は時間が少ないから時間を有効に使ふこと

成る可く理論より實習を主とすること 理論は刷物等とし配付し實際に於て説明すること

割烹の實習(設備の問題だから内容を定めず洗濯の實習)

三、作法は女子として必須なる平易なる座作進退

應對

物品の受授

日常期の作法

用具は菓子器、茶器、座布團、團扇、膳部、煙草盆(灰皿を含む)、花活、花臺、作法の掛

四、手藝は各自の所有の材料を主として定むること

教育者の識見を高むると生徒の觀賞眼を尙ぶ爲めに標本材料を買入れる事

交替休業制補習教育裁縫科教授細目
 教授方法 一、二、三部 複循環式
 所用時間 四十時間

一、基礎練習	二	二	二
一、本裁女單衣(棒衿)	二	二	二
1. 仕立上寸法 裁ち方 積り方 標附け方	二	二	二
2. 部分縫	二	二	二
イ、元祿袖 ロ、前身頃	二	二	二
一、ブロース	二	二	二
1. 型紙取り方、裁ち方	二	二	二
2. 實習	二	二	二
一、本裁男單衣(鈎衿)	二	二	二
1. 仕立上寸法 裁ち方 積り方 標附け方	二	二	二
2. 部分縫	二	二	二
イ、筒袖 ロ、揚及び袖附留方	二	二	二
一、本裁女單衣 實習	二	二	二
一、本裁女衿	二	二	二
1. 裏地用布裁ち方、積り方 標附け方	二	二	二
2. 部分縫	二	二	二
イ、元祿袖及袖附留方 ロ、襷標附け方、縫ひ方	二	二	二
3. 實習	二	二	二
一、刺烹前掛 裁ち方及裁ち方實習(新聞紙)	二	二	二
一、一二歳兒エプロン	二	二	二

一、嬰兒帽子 型紙取り方、裁ち方	一	一	一
一、涎掛 型紙取り方、裁ち方	一	一	一
一、女袴 1. 各部名稱 仕立上寸法及割出し方 裁ち方、積り方、標附け方 2. 實習(ハترون紙) (笹ヒダ部分縫)	二	六	二
二、部	二	二	二
一、中裁小裁	二	二	二
1. 仕立上寸法、裁ち方、積り方 2. 四つ身一つ身標附け方	二	二	二
二、春守、紐飾 筆記、刺し方	四	二	二
二、部分縫	二	二	二
1. 衿筒袖 2. 縮入袖口	二	二	二
一、本裁女衿羽織 1. 仕立上寸法、裁ち方 2. 部分縫 前身頃	二	二	二
3. 實習	二	二	二
一、廣幅物男衿羽織(裏地共廣幅) 1. 仕立上寸法、裁ち方 積り方、標附け方	二	二	二
1. 型紙取り方、裁ち方 2. 實習	二	一	三

3. 綿入袴	一、寝冷知らず(二三歳、五六歳) 型紙取り方、裁ち方	二	2. 部分縫(雛形) 袖附ハッ留	四
一、廣幅物長着 裁ち方、積り方	一、	一	一、男女重ね下着寸法詰方及紋の位置	一
一、部分縫 額縁	一、	一	一、春紋の縫ひ方	一
一、女長襦袢 1. 仕立上寸法、裁ち方 積り方、標附け方 2. 實習	一、	八	一、ミシン使用法 各部名稱及用途、實習	四
一、腹合せ帯 1. 布の整理、標附け方 縫ひ方順序説明 2. 實習	一、	八	一、婦人シャツ 裁ち方、縫ひ方順序説明	二
一、補綴(木綿) 穴つき 色紙つき 刺しつき	一、	二	一、五六歳女児エプロン 裁ち方縫ひ方順序説明	一
			一、穴かぶり 練習	一
			一、四五歳男帽子(六ツハギ) 型紙取り方、裁ち方、縫ひ方順序説明	二
			一、三ツ身片面物 裁ち方	一
			一、袖無(二種) 1. 仕立上寸法、裁ち方 積り方、標附け方 2. 實習	一
				四

3. 三部 一年	一、廣幅物ヘチマ袴コート 附仕事着 1. 仕立上寸法 裁ち方 積り方、標附け方 2. 部分縫 イ、ヘチマ袴 ロ、角袴及ポケット ハ、紐結	二 四 四 二	3. 三部 二年	一、五六歳児マント 型紙取り方、裁ち方	四
一、五六歳女児簡單服及下着 寸法取り方 標準寸法 型紙取り方 裁ち方 縫ひ方 順序説明	一、	四	一、蒲團 種類、裁切寸法、綿の量、縫ひ方、 綴方、説明	一	
一、十一、二歳男兒運動服 型紙取り方 裁ち方 縫ひ方 順序説明	一、	四	一、負半纏 種類、仕立上寸法、裁ち方、積り方、 標附け方、綿の量	一	
一、本裁女單羽織 1. 裁ち方 積り方 標附け方 2. 部分縫 前身頃	一、	二	一、三四歳ロンパース 型紙取り方、裁ち方	二	
			一、本裁シャツ、ズボン下 裁切寸法、裁ち方、縫ひ方順序説明	四	
			一、手刺、手甲 型紙取り方、裁ち方	一	
			一、絹、毛布取り扱ひ方	一	
			一、補綴(絹、毛) 穴つき、色紙つき	二	

一、雪袴 1. 仕立上寸法 裁ち方 標附け方 2. 實習	一、猿股 裁ち方及ビ裁ち方實習（新聞紙）	一、男袴 1. 各部名稱、仕立上寸法及ビ割出し方、 裁ち方、襷方、標附け方、縫ひ方順序 2. 部分縫 腰立 3. 實習（ハトロン紙）	一、一 五
一、股引 1. 裁切寸法、割出し方、裁ち方、 縫ひ方順序説明 2. 裁ち方實習（ハトロン紙）	ア、廣幅物襦袢無男袴 裁ち方、標附け方	一、嬰兒着二揃及ビ抱着 仕立上寸法、裁ち方、綿の量	二 二
二 二	二 二	二 〇	二 六 四

昭和九年十月十日印刷
昭和九年十月十五日發行

（非賣品）

著作兼
發行者

長野縣諏訪郡平野村三六九九
諏訪製絲研究會事務所
右代表者 山岡孫作

印刷者

長野縣諏訪郡川岸村四七〇
鮎澤隆吉

終